

緑化事業スマート化など学ぶ

第35回芝草勉強会を開催

日栄商事

日栄商事（本社・金沢市、中村哲郎取締役社長）は20日、第35回芝草勉強会を金沢市の石川県地場産業振興センター本館大ホールで開催した。

3年ぶりの開催となった勉強会には北陸3県からゴルフ場や公園、道路・河川といった緑地等の

芝草の維持管理に携わる事業者約200人が参加。冒頭、中村社長がプログラム内容を紹介した上で、「本日の勉強会が実り良きものとなり、今年こそコロナが終息して皆さまが活躍されることを願う」とあいさつした。続いて同社農事部技術普

及課の石綿愛里沙氏が「緑化事業のスマート化について」と題して講演。近年、農業分野と先端技術を組み合わせたスマート農業は広がる中、農場面でのドローンの活用事例を中心に紹介。農業用ドローンは、大きく重量があり、バッテリー容量が小さく積載量も限られることから、高濃度小水量の登録薬剤がドローン散布に向いていると説明。しかし、高濃度の薬剤散布による農薬の懸念から、現状は農薬登録が少なく普及は厳しいと指摘しながらも「今後、農薬登録が増えると緑化場面での普及が進むのではないか」と述べた。

Cs経済研究所代表の門倉貴史氏が「アフターコロナの日本経済とグリーンビジネスについて」と題して基調講演。日本経済の中長期的課題の労働力人口減少に対する解決策などを挙げながら、脱炭素社会の実現のため政府が打ち出したグリーン成長戦略により、緑化ビジネスは今後拡大すると強調。その中でも「屋上緑化市場の高成長が見込まれる」と指摘した。



北陸3県から200人が参加した芝草勉強会＝金沢

続いて、フジテレビ「ホンマでっかー？TV」など各種メディアに出演のエコノミストでBRI